

第71期
定時株主総会

ニプロ株式会社

Copyright 2024 NIPRO All rights reserved.



事業報告

企業集団の現況に関する事項

事業の経過および成果

日本経済

- 新型コロナウイルス感染症の各種制限の緩和
- 原材料価格の高騰やエネルギー価格の変動は継続

緩やかに
持ち直す動き

先行き不透明な
状況で推移

世界経済

- 高インフレに対する各国の金融引き締め
- 欧州地域の地政学的リスク
中国経済が不安定

不確実性が残る
状況で推移

医療機器、医薬品業界

物資の高騰や医療従事者の
人手不足等

医療機器、医薬品の
安全性に対する規制強化

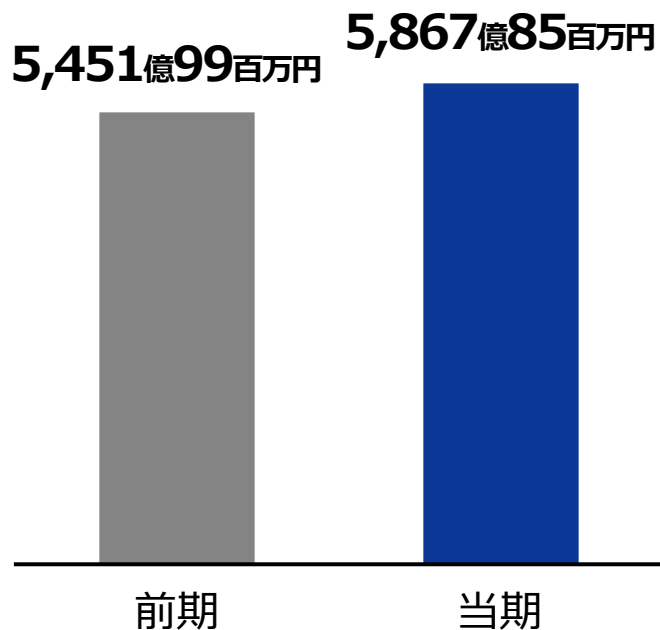
新興国の医療インフラの整備、先進国の医療デジタル化の推進

ニプログループ

- ◆ すべての人が適切な医療を受けられる持続可能な社会を実現
- ◆ より安全な医療環境を整備するための一翼を担う
- ◆ 医療機器・医薬品メーカーとしての責任と役割を果たす

連結売上高

5,867億85百万円 | 前期比 7.6% 増 ▲

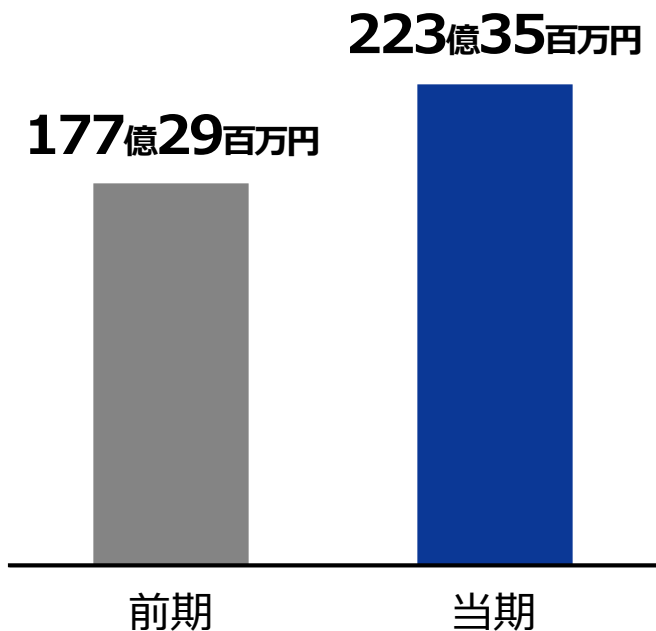


- ▲ 主力の透析、ホスピタル関連製品の需要機会を逃すことなく販売、プロモーション活動に注力したことで堅調に推移
- ▲ 海外売上高において、為替相場が円安方向で推移したことで売上増加
- ▲ エソメプラゾールが大きく寄与
- ▼ 医薬品の供給不足問題はいまだ継続
- ▼ 次年度の薬価改定を控えての買い控え

単体売上高 3,683億43百万円 | 前期比 5.3% 増 ▲

連結営業利益

223億35百万円 | 前期比 26.0% 増 ▲



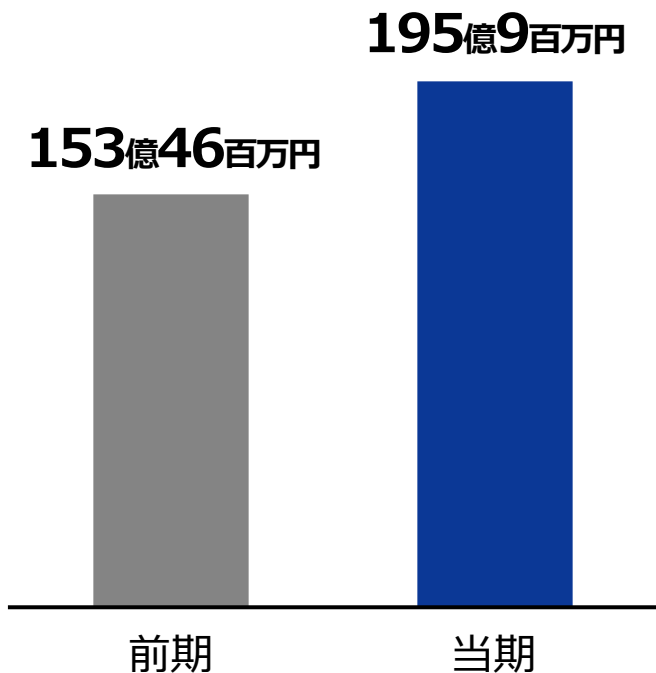
- ▼ 原材料やエネルギー価格の高騰および円安による輸入資材のコストアップ
- ▲ 販売価格の適正化と生産数量増加によるコスト削減により利益を確保
- ▲ 新型コロナウイルス感染症による物流の混乱が収束し、海上運賃は大幅に改善
- ▼ 減価償却費の増加、品質管理体制の強化に伴う不適合品の在庫廃棄の増加

単体営業利益

57億60百万円 | 前期比 77.2% 増 ▲

連結経常利益

195億9百万円 | 前期比 27.1% 増 ▲



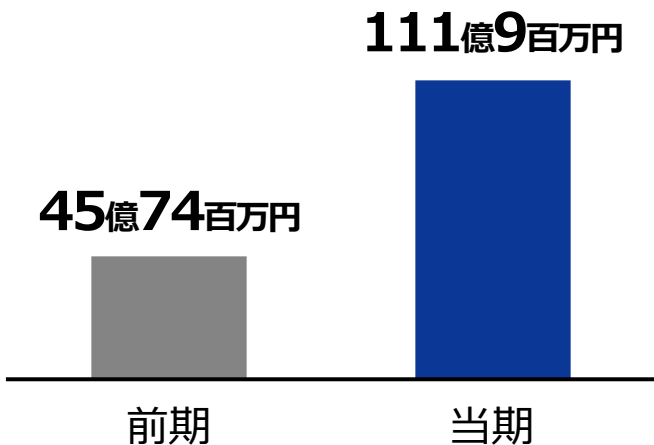
- ▼ 金利上昇の影響を受け、利息費用が増加
- ▲ 営業利益の下支えもあり増加

単体経常利益

97億42百万円 | 前期比 11.9% 増 ▲

親会社株主に帰属する当期純利益

111億9百万円 | 前期比 **142.8% 増** ▲



- ▲ 政策保有株式や旧本社ビル等の不動産売却により特別利益を計上
- ▼ 中国での合併解消による関係会社出資金の売却損や関連会社株式の評価損等の特別損失も計上
- ▼ 課税所得増加による法人税等の増加
- ▲ 税効果も改善したため税金費用もある程度抑える

当期純利益

68億66百万円 | 前期比 **21.3% 減** ▼

企業集団の現況に関する事項

セグメント別の概況

国内販売 メディカル営業部門



注射・輸液関連製品

▲ 好調に推移



SARSコロナウイルス
抗原キット・
インフルエンザウイルス
キット

▲ 好調に推移



バスキュラー関連製品

▼ 他社参入の影響



透析関連製品

▼ 透析装置設置の減少

全体では低調な推移

国内販売 医薬営業部門

- ▲ ネキシウムAG※のエソメプラゾールの販売好調
- ▲ 不採算品再算定品の薬価引き上げ

売上高、利益ともに堅調に推移

依然として供給問題が解消しないなか、
得意先への丁寧な説明と真摯な対応

▶ 存在感向上

※ AG : Authorized Generic. 先発医薬品メーカーから許諾を得て製造されるジェネリック医薬品。

海外販売

学術活動の深耕と技術営業の向上、
各国KOL※との連携強化を拡充

高付加価値商品
の販売に注力

■ 透析関連商品

欧州、アジア、インド等、
各地域での販売が順調に推移

前年比増収

■ 透析センター

当第4四半期においてタイ、
南アフリカで計4施設を新規開設

地域医療に貢献

※KOL : Key Opinion Leader。販売促進に影響力を持つ医師などの専門家のこと。

運送費

海上運賃

▶ 正常

国内外の陸送コスト

▶ 上昇傾向

ハブ倉庫の活用

地産地消の促進

安全在庫の確保

安定供給
経費削減を推進

医療現場のニーズに迅速に対応・顧客満足の上

売上高の拡大、利益の確保につなげる

生産拠点

2024年3月

合肥工場で新たなダイアライザ生産ラインが稼働

インド工場

大館工場

合肥工場

⇩ ⇩ ⇩
新生産ラインの順調な稼働

更なるダイアライザ生産ラインの稼働を予定

供給能力の拡大に尽力

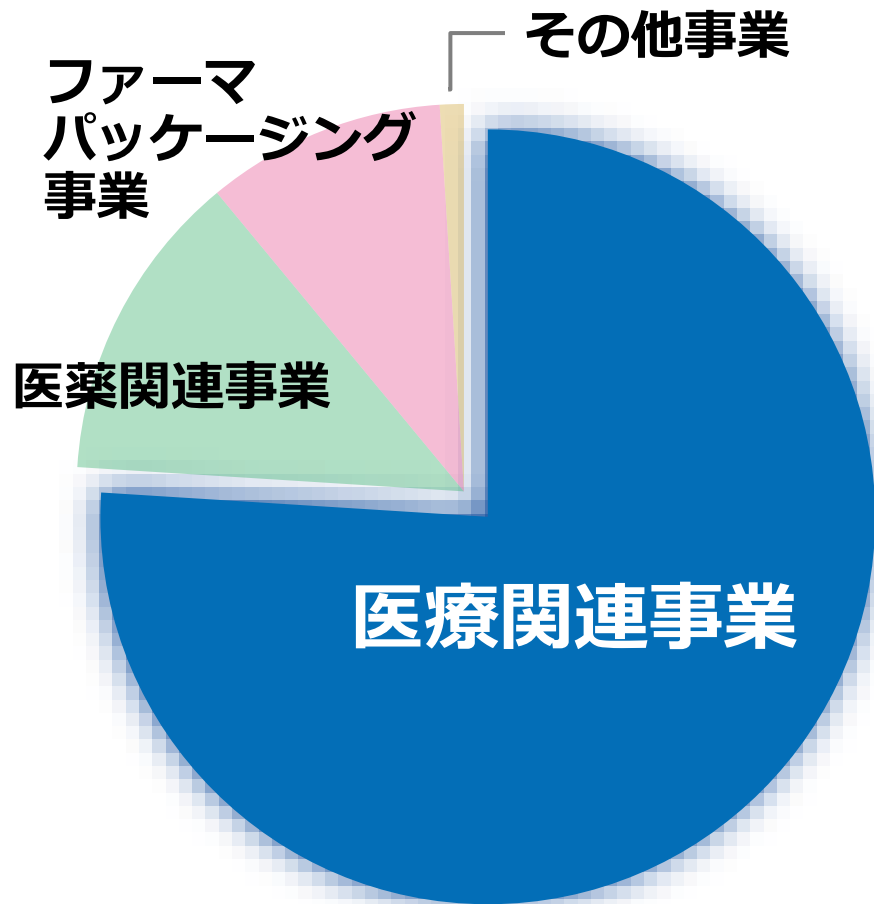
医療関連事業

売上高

4,536億13百万円

前期比

8.0% 増 ▲



- 複数の先発医薬品の
新規受託製品の商用出荷開始
- 新型コロナウイルス感染症流行時に
減少していた一部品目の回復
- 後発品の終売や受託製品の
販売終了による出荷減少

売上高は
前年同期比で
微増

- 埼玉試験棟の稼働による試験業務の
分散効果に伴う出荷数増や、
原価上昇に伴う仕切価格の変更

収益の改善

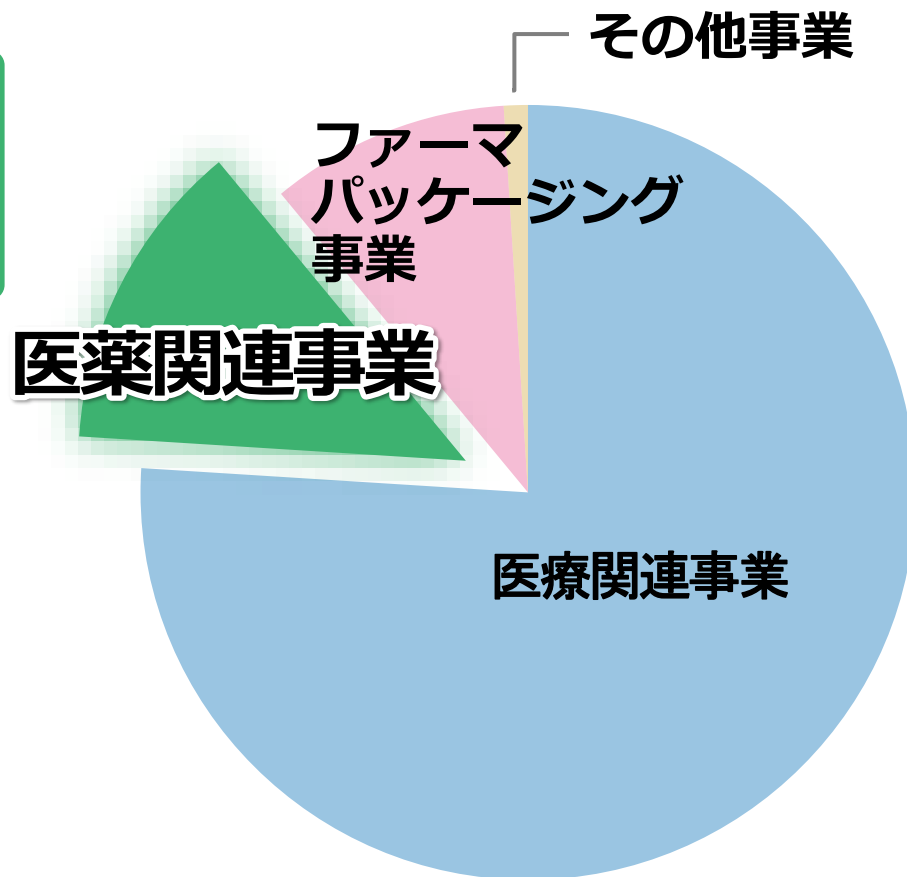
医薬関連事業

売上高

743億20百万円

前期比

2.2% 増 ▲



医薬用包装容器およびガラス管

増産体制を整備

人的リソースの確保

インフレに伴うコスト増を緩和する施策を展開

収益確保策

- 工場横断的な生産性の向上
- 調達単価低減
- 高付加価値品の市場開拓を鋭意推進

国内市場

- 高利益品のひとつである溶解液
注入針や輸液システム等の販売

▶ 堅調に推移

海外市場

- 硝子管、包装容器ともに出荷が
軟調、販売単価の適正化や
製品ミックスの効果

▶ 増収を達成

- ワクチン向け需要が激減した中国、
市場競争が激しいインドで

▶ 苦戦を強いられた

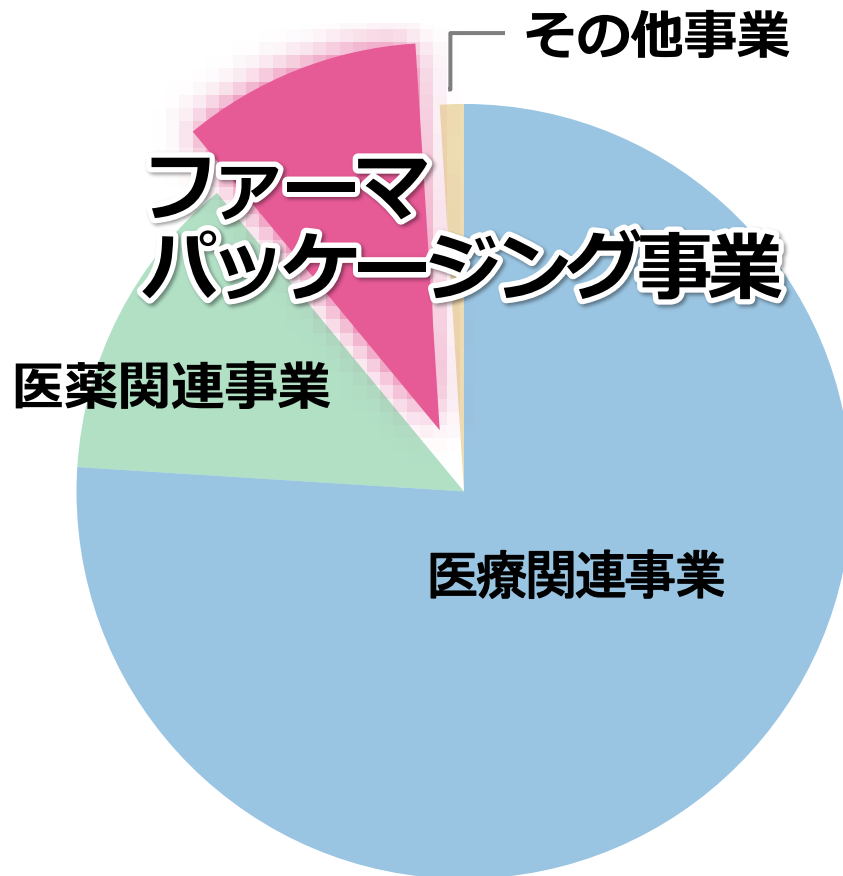
ファーマパッケージング事業

売上高

580億35百万円

前期比

12.1% 増 ▲



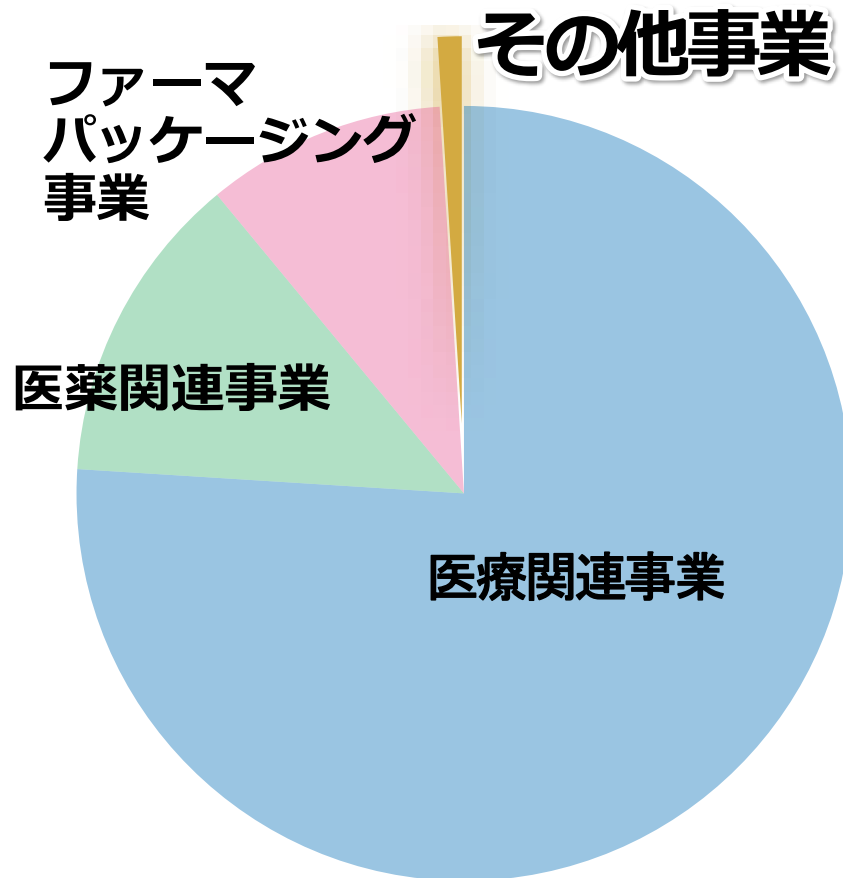
その他事業

売上高

8億16百万円

前期比

8.5% 増 ▲



企業集団の現況に関する事項

設備投資

◆ニプロ 大館工場 ▶ **ダイアライザ関連の新工場建設**

◆ニプロファーマ株式会社

▶ **注射剤製造工場の建設工事および生産設備の増強**

◆ニプロメディカルコーポレーション ▶ **透析装置の導入**

◆ニプロファーマパッケージングジャーマニーGmbH

◆ニプロファーマパッケージングフランスS.A.S.

▶ **生産設備の増強**

総額

1,036億28百万円

企業集団の現況に関する事項

資金調達

ソーシャルローン

373億円を調達

第13回無担保社債

100億円を発行

**医療機器・医薬品等の安定供給を通じて、
世界中の人々の健康とQOL向上に貢献**

企業集団の現況に関する事項

対処すべき課題

各国の医療行政が負担する費用も拡大

メーカー

- ▶ 医療費の抑制を目的としたコスト削減
- ▶ 安全性に対する要求がますます高まるなか製品を安定的に供給する責任

課題

- ▶ 医療従事者の負担を軽減させること

高い倫理観と責任感を持って
適切に事業活動を推し進める

医療関連事業

メディカル営業部門

**市場ニーズ・シーズに応えられる製品の開発
積極的な市場展開、販売強化**

**安定生産、安定供給の為の
危機管理体制を強化**

**医療従事者の働き方改革をDXで支える
ニプロ総合医療ネットワークシステムを普及**

医療関連事業

医薬営業部門

**毎年の薬価改定と原材料の高騰により
製薬業界全体が非常に厳しい経営環境**

適正価格販売を奨励し、薬価維持に努める

**適正利益を確保しつつ設備投資を行い、
安定供給に努める**

医療現場のニーズを捉えた提案営業を続ける

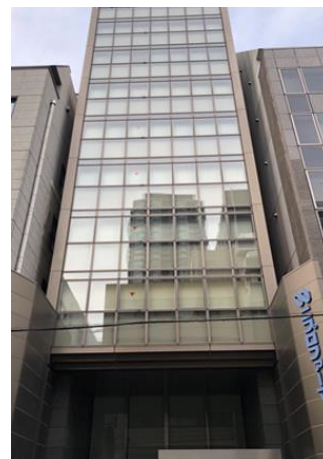
医薬関連事業

品質
最優先

医薬品の供給に関する課題に対処すべく
生産能力の増強と拡充を引き続き進める



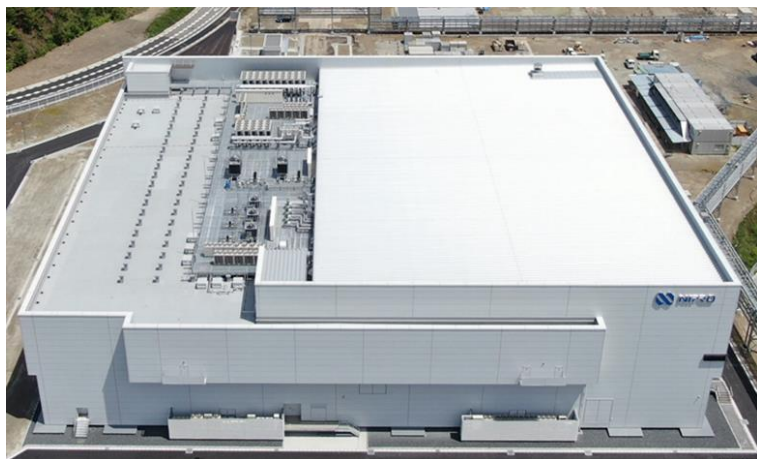
ニプロファーマ埼玉試験棟
(2023年12月稼働)



ニプロファーマ道修町分析センター
(2024年3月稼働)

医薬関連事業

受託製造の伸長や、医薬品の安定供給の課題に対処するため、生産能力の増強と拡充



ニプロファーマ近江工場



ニプロファーマ伊勢工場

ファーマパッケージング事業

**発展途上国の医療水準の高度化等が、
医療用容器市場の中長期的な成長を牽引**

**インフレーションやアフターコロナ期の
在庫調整局面を巡る価格競争の進行**

**多くの国が医療費抑制策を強化するなど、
利益面での下方圧力が高まる**

ファーマパッケージング事業

成長機会を確実に捉えるとともに 収益面での逆境を克服することが最重要課題

■ シェア拡大 を実現

提案型技術営業により更なる顧客満足度の向上

営業部門間の連携および
クロスセルの実践が不可欠

■ 価格競争力 の確保

商品の迅速な開発・上市、製造原価の低減
サプライチェーンの最適化

**優先される課題に真摯に対応していくため
確固たる財務基盤の確立が大前提**

**外部環境が変化しつつある
現在の状況においては大きな課題**



**財務基盤の強化に関する
取り組みを今後も継続的に進める**

◆ その他の企業集団の現況に関する事項

「財産および損益の状況の推移」 「重要な親会社および子会社の状況」
「主要な事業内容」 「主要な営業所および工場」 「従業員の状況」
「主要な借入先」

◆ 会社の株式に関する事項

◆ 会社の新株予約権等に関する事項

◆ 会社役員に関する事項

◆ 会計監査人の状況

上記については当社ウェブサイトに掲載した招集通知に記載のとおりです

https://www.nipro.co.jp/assets/document/ir_stock/meeting_71st/notice.pdf#page=34

連結計算書類

連結貸借対照表

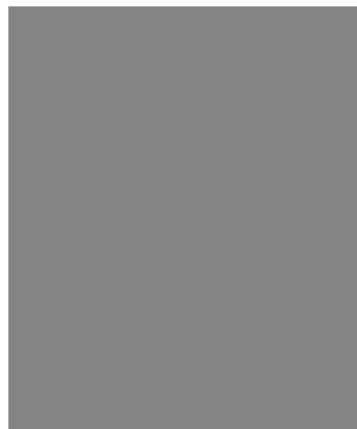
資産合計

1兆1,098億21百万円

前期末比

824億22百万円増加 ▲

1兆273億99百万円



前期末

1兆1,098億21百万円



当期末

流動資産

5,241億66百万円

前期末比

348億76百万円増加 ▲

4,892億89百万円

5,241億66百万円



前期末

当期末

増加要因

商品及び製品

126億17百万円

増加 ▲

固定資産

5,856億55百万円

前期末比

475億45百万円増加 ▲

5,381億9百万円

5,856億55百万円



前期末



当期末

増加要因

建物及び構築物
405億83百万円
増加 ▲

負債合計

8,400億32百万円

前期末比

548億7百万円増加 ▲

7,852億25百万円



前期末

8,400億32百万円



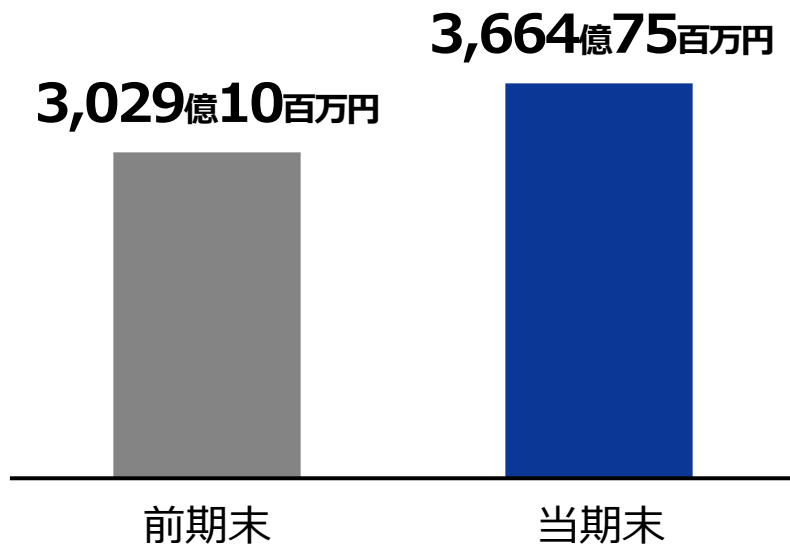
当期末

流動負債

3,664億75百万円

前期末比

635億65百万円増加 ▲



増加要因

短期借入金

297億97百万円

増加 ▲

固定負債

4,735億57百万円

前期末比

87億57百万円減少 

4,823億15百万円

4,735億57百万円



前期末



当期末

減少要因

長期借入金

137億36百万円

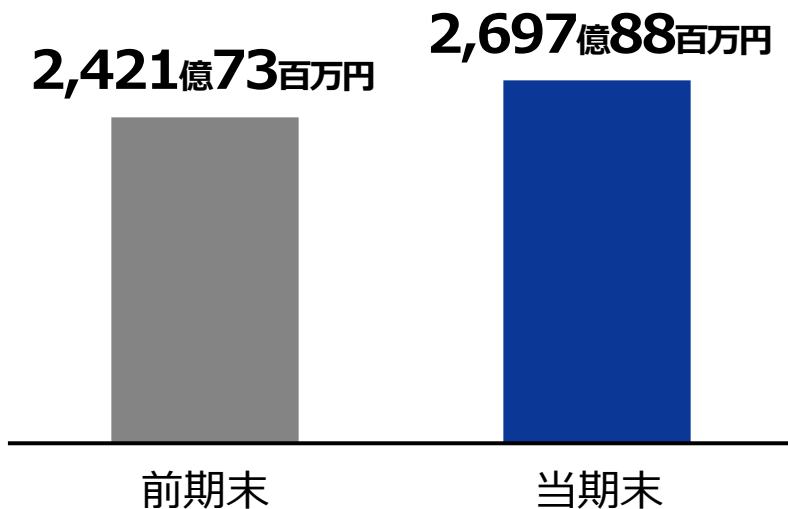
減少 

純資産合計

2,697億88百万円

前期末比

276億14百万円増加 ▲



増加要因

株主資本 88億円増加 ▲

その他の包括利益累計額
175億48百万円増加 ▲

連結損益計算書

事業の経過および成果に記載のとおりです

計算書類

当社ウェブサイト掲載の招集通知に記載のとおりです

https://www.nipro.co.jp/assets/document/ir_stock/meeting_71st/notice.pdf#page=51

招集ご通知に際しての電子提供措置事項

- ❖ 事業報告の業務の適正を確保するための体制および当該体制の運用状況の概要
- ❖ 連結計算書類の連結株主資本等変動計算書
- ❖ 連結計算書類の連結注記表
- ❖ 計算書類の株主資本等変動計算書
- ❖ 計算書類の個別注記表

当社ウェブサイトに掲載のとおりです

https://www.nipro.co.jp/assets/document/ir_stock/meeting_71st/electronic_provision.pdf

会計監査人および監査役会の 連結計算書類監査結果報告

当社ウェブサイト掲載の招集通知に記載のとおりです

https://www.nipro.co.jp/assets/document/ir_stock/meeting_71st/notice.pdf#page=53